

科目名	企業実習 II Factory Training II	科目コード	51590
-----	--------------------------------	-------	-------

学科名・学年	環境都市工学科・4年（プログラム1年）
担当教員	押木 守（環境都市工学科）
区分・単位数	履修単位科目・選択・2単位
開講時期・時間数	夏期休業中，60時間【内訳：その他30】
教科書	
補助教材	
参考書	

【A. 科目の概要と関連性】

実社会の企業等の仕事を体験することにより，学校での学習の意義を確認し，卒業後の進路決定の一助とすべき貴重な機会である。受講者は，実習実施責任者(学科主任)と実施科目指導教員(クラス担任)と相談の上，実習先を決定する。

- ・実習期間:夏季休業中
- ・1週間以上経費: 実施経費は実習生負担
- ・保険:傷害保険に加入のこと
- ・事前指導:実習生は実習科目指導教員より，事前指導を受けること
- ・実習先での注意:実習生は企業等の実習責任者の指示に必ず従うこと
- ・発表: 実習生は実習報告書を作成した上で，発表会において実習経過と内容を発表する

○ 関連する科目:卒業研究(次年度履修)

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(F)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と，成績評価上の重み付け，各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

科目の到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
①企業等での仕事を体験し，技術者としての心構えや仕事に必要な知識を身に付ける。	75%	(f1)
②企業等での仕事を体験し，技術者としての使命と能力について考える。	25%	(f2)

【C. 履修上の注意】

実際の仕事を体験することは意義ぶかく，将来への指針を得る機会とすることもできる。実習先では，真摯な態度で業務にあたること。実習報告書や口頭発表では，事実の報告に加え，技術者としての使命や能力について，実習を通して考察した内容に言及すること。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する. 60 点以上を合格とする.

- レポート(実習報告書,25%)
- その他(発表会での内容 25%,実習責任者から提出される実習証明書 50%)

【E. 授業計画・内容】

- 事前指導
- 実習企業等において 1 週間以上
- 実習報告書の提出(企業等における仕事、作業内容や現場作業様子を理解しているかどうか見る)
- 実習発表会での発表による報告
- 企業実習責任者からの実習証明書の提出評価